

情報連絡員報告総括表(平成29年6月分)

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 (臨時・パートを含む)			業界景況		
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製 造 業	食料品		4		4		1	3			4			3	1		3	1		4			4			3	1
	繊維工業	1	2			2	1				3			3			3			2	1		3			3	
	木材・木製品			1		1			1			1			1		1				1		1				1
	紙・紙加工品	1		1		2		1	1		1	1		1	1		2			1	1		1	1	1	1	
	印刷		1			1			1		1			1			1			1			1			1	
	化学・ゴム																										
	窯業・土石製品	2	1			3			3		3			3			3			1	2		3			3	
	鉄鋼・金属	1				1			1		1		1		1		1			1			1			1	
	一般機器	2	1		1	2			3		3		1	2			3			1	2		1	2			3
	電気機器		1			1			1		1			1			1				1		1			1	
輸送機器	1				1			1		1			1			1			1			1			1		
その他																											
小計	8	10	2	1	18	1	3	17		1	18	1	3	15	2		19	1	4	13	3	3	16	1	3	15	2
非 製 造 業	卸売業		1	1		1	1			2			1	1		2							1	1		1	1
	小売業	2	2	2	2	3	1	2	3	1		4	2		3	3		2	4				6		1	3	2
	商店街		1				1			1				1		1							1			1	
	サービス業		3	2					4	1		5			3	2		4	1				5			3	2
	建設業	1	2	1				1	3			4		1	3		1	3					4		1	3	
	運輸業	1							1			1			1			1					1			1	
	その他		1						1			1			1			1					1			1	
小計	4	10	6	2	4	3	3	14	3		18	2	1	12	7	1	14	5				19	1	2	13	5	
合計	12	20	8	3	22	4	6	31	3	1	36	3	4	27	9	1	33	6	4	13	3	3	35	2	5	28	7

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成28年6月～平成29年6月)

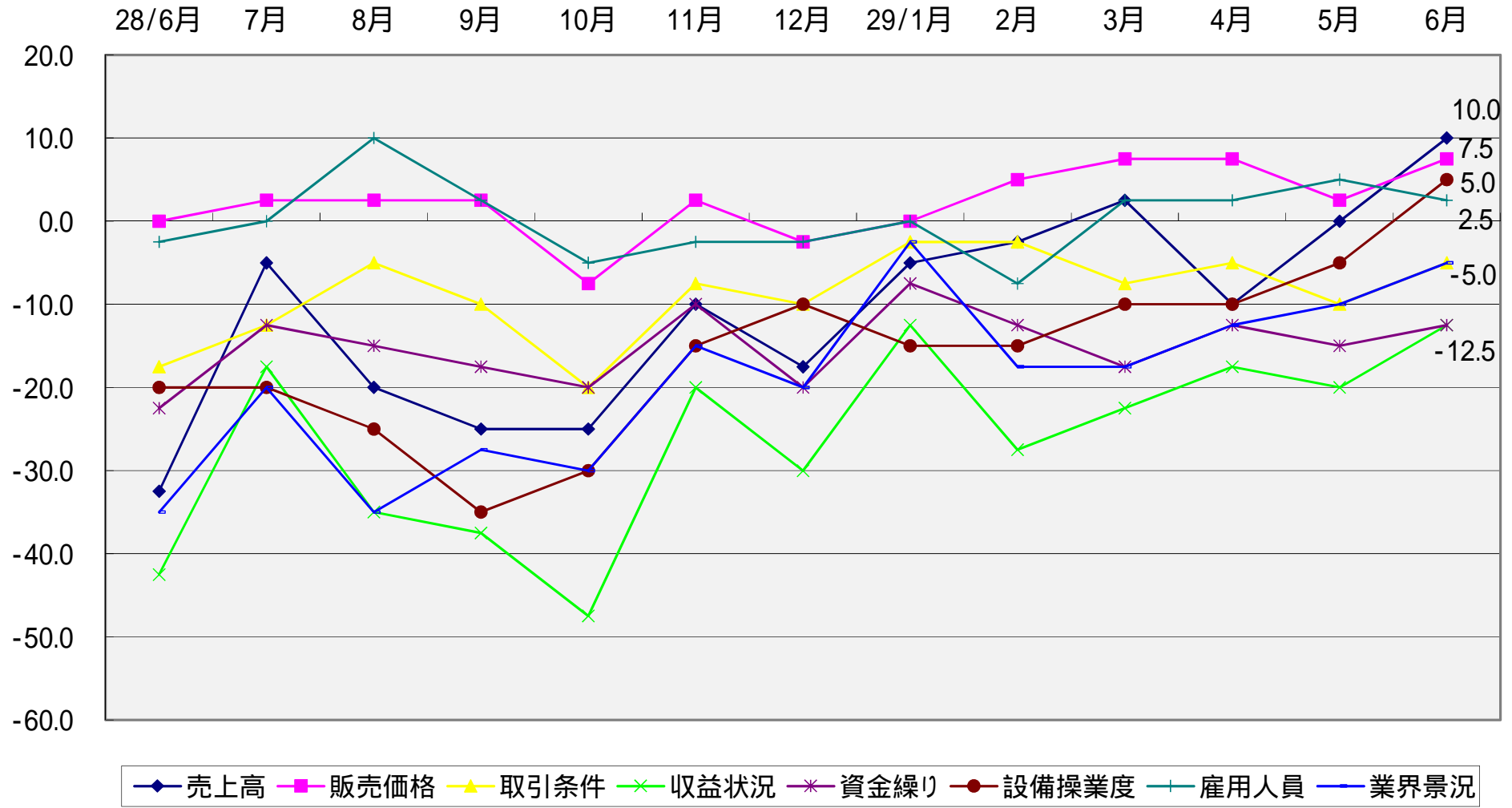
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	28/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	29/1月	2月	3月	4月	5月	6月	増減
売上高	-32.5	-5.0	-20.0	-25.0	-25.0	-10.0	-17.5	-5.0	-2.5	2.5	-10.0	0.0	10.0	10.0
販売価格	0.0	2.5	2.5	2.5	-7.5	2.5	-2.5	0.0	5.0	7.5	7.5	2.5	7.5	5.0
取引条件	-17.5	-12.5	-5.0	-10.0	-20.0	-7.5	-10.0	-2.5	-2.5	-7.5	-5.0	-10.0	-5.0	5.0
収益状況	-42.5	-17.5	-35.0	-37.5	-47.5	-20.0	-30.0	-12.5	-27.5	-22.5	-17.5	-20.0	-12.5	7.5
資金繰り	-22.5	-12.5	-15.0	-17.5	-20.0	-10.0	-20.0	-7.5	-12.5	-17.5	-12.5	-15.0	-12.5	2.5
設備操業度	-20.0	-20.0	-25.0	-35.0	-30.0	-15.0	-10.0	-15.0	-15.0	-10.0	-10.0	-5.0	5.0	10.0
雇用人員	-2.5	0.0	10.0	2.5	-5.0	-2.5	-2.5	0.0	-7.5	2.5	2.5	5.0	2.5	-2.5
業界景況	-35.0	-20.0	-35.0	-27.5	-30.0	-15.0	-20.0	-2.5	-17.5	-17.5	-12.5	-10.0	-5.0	5.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成29年6月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	食料品	醤油味噌	「三重・しょうゆ街道」の開催を通じ、三重のしょうゆの魅力、しょうゆ販売の取り組み等が消費者をはじめ、イオン等にも伝わり始めていることから、このたび、6月からイオン四日市尾平店で地産池消に対する消費者意識の高まりに積極的に対応するため、「三重の食」と題したブースが開設され、「三重・しょうゆ街道」に出品している三重県のしょうゆが販売されている。
		豆腐	各事務所、豆腐の原材料の大豆が旧穀（平成27年度産）から新穀（平成28年度産）に切り替わる時期であるが、国産大豆、輸入大豆ともに価格品質とも比較的安定している。
		製麺	サミットが終わり、1年が経った。少し落ち着いた様に思う。業界として、今後イベント等もあり、組合をあげて取り組んでいけるように商品及び安全面を充実させていく。HACCPの取り組みも各会社で取れるようにしていきたいと思う。
	紙・紙加工品	紙器段ボール	6月下旬に、古紙価格の上昇等を理由に、大手2社より段ボール原紙及び製品の値上げ発表があった。原紙は8月からキロ10円、製品は10月より15%の値上げのアナウンスがあった。業界の歩調が取れていないため、我々中小のユーザーへの値上げ活動において、困難が予想される。
		古紙	6月期の仕入量は、前年比：段ボール・約98±3%位、新聞、チラシ・約88+7%の間位、雑誌、雑紙、その他合わせて約98-3%の間位の中での推移である。物流に使用される段ボールは1箱あたりの軽量化が進むも箱量が前年より増加しているようで、古紙の集荷が前年以上になる組合員もあるようである。王子グループが7月1日より古紙価格を上方修正し、報道もなされたが、その他の製紙会社の連絡や発表はない。後日に「段ボール等の原紙価格も8月1日より値上げ。」との記事も業界紙で発表された。輸出古紙の価格が6月に値下がり傾向であったが、7月は5月以前の傾向に戻った。三重県内の四日市市や鈴鹿市でも古紙の持去りは後を絶たないが、持去り行為を注意しようとした四日市市職員が故意に車を接触されてケガをし、容疑者が逮捕された新聞記事を見た。身を挺して職務を遂行された職員の皆さまに感謝する。国会運営や答弁等を聞いていると法治国家は権力者や組織等の都合で動く場合があり、常に国民全般の事を考えながら運営されていない様に思える。人間や組織や法律等の限界もあり、古紙持去りもそうであるが、テロ等準備、人格攻撃、ミサイル等、様々なことがあり、混乱しており、古紙業界の先行きも含め、不安やストレスが溜まる。
	窯業・土石製品	萬古	萬古焼技術者育成事業「やきものたまご創生塾」（組合事業）を第11期生4名にて、7月3日に開講式を行い、平成30年3月までに事業を実施する。
		伊賀焼	売上については、両館とも昨年を少し上回った。入館者数については、伊賀焼伝統産業会館が昨年より多く、伊賀・信楽古陶館では、昨年より減少している。毎年、6月～8月にかけて、売上は減少する傾向である。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は、5月と同様で、自動車関連は若干の減少、電気機器関連は横並びである。その他の製品は、相変わらず品種が多く、若干の増加傾向にあった。半導体関連は、加工が間に合わず落ち着いた状態ではあるが、IoT並びにAIの普及は多く、夏場から更に増加するとの観測がされている。
	一般機器	四日市	景況感の変化はあまり感じられないが、各組合員共、独自の努力で経営改善に向け、頑張っている。しかしながら、材料の値上がりなどもあり、利益の増加は期待するほどではない状況にある。
		伊勢	南勢地区の製造関係では、人手不足の状態が続いており、来年の新卒者採用も希望人数確保が厳しいものと思われる。また、障害者雇用率や時間外管理等、労務面での課題が多い。
	電気機器	鳥羽	4月5月は低迷していたが、6月に入って少し動き出した。上期後半、下期に対して期待したい。
	輸送機器	鈴鹿	夏以降に発売されるモデルチェンジ前の旧型製品の作りこみ作業で繁忙期である。新型と旧型との端境期は残業、休出等で稼働をあげて対応せねばならず、期間限定の非正規従業員の需要も高くなる。
非製造業	小売業	青果	野菜：前半、一般的に入荷は順調であるが、キャベツは愛知県産から茨城県産に切り替わり、高冷地からの入荷が遅れ気味である。鳥取県産のラッキョウが入荷し、完熟してから収穫するため、酢漬に最適である。梅は、入荷量は例年に比べ、少ない。後半は、好天の合間に適度に雨が降り、入荷が多く、ナス・オクラ・レタス・キャベツがお買い得である。玉葱もお手頃の価格である。果物：愛知県産メロンが種類、量も多く、味も良く人気である。スイカは、愛知県産が中心であり、石川県産も加わり、お値打ちである。サクランボも山形県産が最盛期で価格も安くなっている。後半は、雨の少ない影響で全体的に小玉傾向であるが、味が良く、お中元シーズンで化粧箱入りメロン・ハウスみかん・桃が人気である。
		自転車	警察庁が平成24年に公表した「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」を見直し、昨年12月「自転車活用推進法」が成立し、その施策の動向が注目される中、三重県も自転車安全点検普及事業として、各小学校での自転車安全教育自転車点検を実施した。少子化の影響もあり、昨年より大幅の台数の減少は、個人消費の低調を感じた。一方、実動アシスト車の需要は、県北勢、南勢地区において10%程度の伸びを示した。これは、拡大キャンペーンに参加したショップの影響が大きいように思われる。

非製造業	小売業	電器	梅雨入り後、天候不順が続き、夏物商品は苦戦している。販売は、前年を割り込んでいると思われる。商品別には、エアコン・冷蔵庫が夏季商品のメイン商品群であり、全体的には「高付機能商品」が好調である。付加価値が高く、省エネタイプの商品は、依然として好調に推移しているが、台数ベースでは減少している。また、夏の個展も実施されたが、菜場・販売共に前年と比べ減少しており、厳しい状況である。在庫に関しては、夏物商品の不調により、エアコンを中心に負担増となっている。
		石油	6月の燃料油販売数量については、前年度対比ガソリンは、2%前後の減販であった。特に先月同様にガソリンについては、各販売店の販売数量の落ち込みを抑えるための価格競争により、燃料油収益の厳しい状況が続いているのが、現状であるが、特に飲料等夏物商品が本格稼働により、トラック稼働が上昇しており、軽油販売数量が増販傾向にある。これから夏商戦が本格的に始まるが、各販売店の経営を再度確認して販売収益を改善していきたい。
		スポーツ	平成30年のインターハイ（全国高等学校総合体育大会）に向けて開催種目の市町より、用具、ユニフォーム等の注文がある。大きなビジネスチャンスであるので、組合全体で頑張っていく。
	商店街	熊野	昨年まで、朝市イベントを6月にも開催していたが、例年どうしても売上が厳しく、また、スタッフのやりくりが厳しいこともあり、今年度から6月の開催は取り止めとなった。毎月出店されている常連業者からは、少数の有志での出店でもとの声も出ていたが、少数出店では売上も伴わないのではとの懸念もあり、結局断念することになった。今後は、小イベント等集客のできる工夫を行い次年度以降の6月開催を目指していく。
	サービス業	旅館	昨年は、「伊勢志摩サミットが終わってから、伊勢志摩へ行こう」といった声もよく聞いていたのですが、V字回復するかと期待していたが、参議院選挙もあり、客足は伸びなかった。一昨年は、「プレミアム旅行券」の効果により、大きく業況は好転したが、今年は一昨年、昨年と比べ、10%前後業績を落としていたようである。最近発表された入込客数、宿泊者数ともに良い数字が出ていたが、業界では、実感として感じられないとの声もよく聞こえてくる。
		警備	例年、この6月は梅雨時であり、雨天日が多く、作業中止等で売上は減少するが、今年は前半晴天が続き、売上は不変であった。
	建設業	建設業	公共事業予算が大きく減少したことに加え、上半期発注率の目標値が示されていないこともあり、受注額が大幅に減少している。
		内装工事業	6月も前年同月比は、連続で売上増加となり、業界の景況として、好ましい流れとなっている。7月以降もこのような流れが続くことを願う。
		水道工事業（四日市）	今月は特に大きな変化は見られなかった。ただ、梅雨の影響なのか多少仕事量が減少しているように思われた。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	
食料品	製麺	HACCPの取り組みに助成金制度があれば教えてほしい。
一般機器	四日市	政府は、日本経済を支えているのは、370万社の中小企業のおかげだと言っているにもかかわらず、中小企業に対する対策や援助がなされていないように感じる。
サービス業	旅館	消費喚起生活支援型交付金を活用した「みえ旅プレミアム旅行券」が一昨年に発行され、大きな効果が出ていた。停滞感を打破するためにも、再度実行されるように要望する。